



平成 20 年 3 月 27 日

明治安田生命保険相互会社
株式会社みずほフィナンシャルグループ
株式会社損害保険ジャパン
第一生命保険相互会社

今年も全国の新入学一年生 120 万人へ「黄色いワッペン」を贈呈

新入学一年生 16 名が参加して、ピーポくん、警視庁騎馬隊・白バイ隊の協力で交通安全教室も

明治安田生命保険、みずほフィナンシャルグループ、損害保険ジャパン、第一生命保険の 4 社は、3 月 27 日（木）、港区立男女平等参画センター「リーブラ」で、第 44 回「黄色いワッペン」贈呈式と交通安全教室を開催しました。

贈呈式には、この春小学校へ入学する新一年生の代表 16 名と全日本交通安全協会、東京交通安全協会をはじめ内閣府、警察庁、東京都、警視庁、全国連合小学校長会および主催 4 社の関係者が出席し、主催者から全日本交通安全協会へ 110 万枚、東京交通安全協会へ 10 万枚の黄色いワッペン贈呈の目録が手渡されました。関係者から、事故の怖さや交通ルールを守ることを聞いた、世田谷区立瀬田小学校に入学予定の菅野菜々子（かんの・ななこ）さんは、「学校へ行く時は、必ず黄色いワッペンをつけていきます。横断歩道は、無理をしないで、信号と左右を見て、手をあげて渡ります。だから大人の人も、車の運転には気をつけてください」とお礼の言葉を述べました。

式の後には、警視庁の協力で、マスコットの‘ピーポくん’、女性警察官、騎馬隊、第一交通機動隊白バイ隊員の指導による交通安全教室を開催しました。（下記写真）



「黄色いワッペン」贈呈事業について――

ひとつの新聞記事がきっかけ

新小学一年生に対する「黄色いワッペン」贈呈事業は、昭和40年に富士銀行(現みずほフィナンシャルグループ)が創業85周年を記念して「よい子に注意、よい子も注意」をスローガンに始めた交通安全事業です。そのきっかけは、愛するわが子を交通事故で失った母親が、総理大臣宛に交通事故の撲滅を訴えた手紙についての新聞記事でした。当時、交通戦争は一番の社会問題だったのです。わたしたちは、幼い子どもたちを交通事故から守る手立てはないかと思案しました。そこで、せめて子どもたちに目立つものを身につけさせようと、「黄色いワッペン」贈呈事業が誕生しました。当初は、「黄色い腕章」を贈呈していましたが、昭和49年より現在の「ワッペン」に形を変えました。

事業開始翌年には、安田火災海上保険、安田生命保険の2社が、また翌々年には安田信託銀行も加わりました。平成16年からは明治安田生命保険相互会社、株式会社みずほフィナンシャルグループ、株式会社損害保険ジャパン、第一生命保険相互会社の4社で本事業を実施しています。

「黄色いワッペン」に込めた願い

わが子の交通安全を願う親の気持ちは、今日においても変わりません。

「黄色いワッペン」を身につけることで、学校に通う子どもたちに交通安全をよびかけ、保護者やドライバーの方々の注意を喚起し、少しでも子どもたちの交通事故防止にお役立ていただきたいと願っています。

昭和40年の第1回から本年3月の第44回までの贈呈枚数は、約5,426万枚にのぼっています。

交通事故傷害保険

「黄色いワッペン」には昭和43年より交通事故傷害保険がつけられており、このワッペンの交付を受けた新入学一年生が登下校の際に万一事故に遭い、死亡または後遺障害が残った場合、保険金が支払われます。当初は、保険有効期間が3ヵ月、保険金額が最高3万円でした。その後少しずつ改定され、平成6年の第30回を機に、保険有効期間を1年間に、保険金額を最高50万円に延長・増額しました。今年度の新一年生の保険有効期間は平成20年4月1日～平成21年3月31日の1年間となります。

交通安全スローガン

今年度の「黄色いワッペン」には、平成20年度の「交通安全スローガン」、内閣総理大臣賞(最優秀作)こども部門「点めつだ 一度止まって 次の青」が刷り込まれています。また、環境に配慮したポリオレフィン系の素材を使用しています。

第44回「黄色いワッペン」贈呈式



「黄色いワッペン」を着けた新入学一年生たち

左から

福島 和夫

関 一

前田 晃伸

佐藤 正敏

松尾 憲治

斎藤 勝利

東京交通安全協会 専務理事

全日本交通安全協会 専務理事

みずほフィナンシャルグループ 取締役社長

損害保険ジャパン 取締役社長

明治安田生命保険 取締役代表執行役社長

第一生命保険 代表取締役社長